

徳島市を取り巻く現状（案）

令和5年7月18日

目次

1 徳島市の現状	1
(1) 人口の動向	1
(2) 死亡の状況	4
(3) 平均寿命と健康寿命	8
(4) 医療状況	9
(5) 介護保険	10
2 がん検診	11
3 特定健康診査・特定保健指導	12
(1) 特定健康診査	12
(2) 特定保健指導	13
4 自殺に関する状況	14
(1) 自殺者数・自殺死亡率の推移	14
(2) 年代別自殺者の状況	16
(3) 同居人の有無別の自殺者の状況	18
(4) 職業別の自殺者の状況	19
(5) 手段別自殺者の状況	19
(6) 場所別の自殺者の状況	20
(7) 原因・動機別の自殺者の状況	20
(8) 自殺者の自殺未遂歴の状況	21
5 地域自殺実態プロフィールによる自殺に関する状況	22
(1) 地域の自殺の特徴	22
(2) 高齢者の自殺者関連	22
(3) 子ども・若者の自殺者関連	23
(4) 生活状況別にみた背景にある女性の主な自殺の危機経路	23

1 徳島市の現状

(1) 人口の動向

①人口の推移と人口の構成

徳島市の人口は、令和5年4月現在で247,978人となっています。

徳島市の令和5年の年齢別人口構成割合は、年少人口12.0%、生産年齢人口58.0%、老年人口30.0%となっています。平成27年以降、ほぼ横ばいの傾向が続いています。

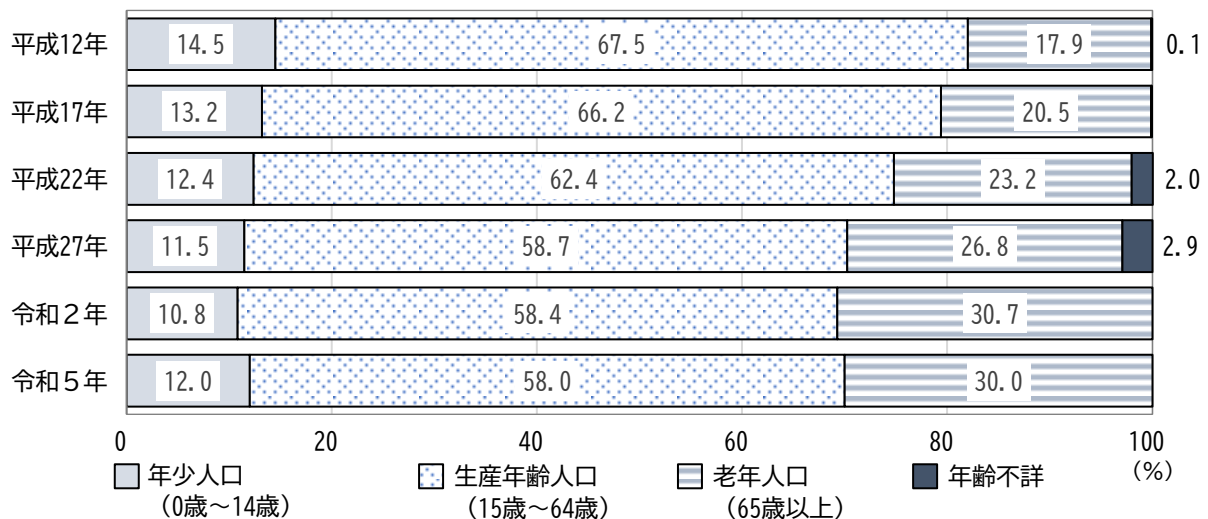
■徳島市の年齢別人口（3区分）の年次推移

(単位：人、%)

区 分		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和5年
総人口（人）	実数	268,218	267,833	264,548	258,554	252,391	247,978
年少人口 (0歳～14歳)	実数	38,797	35,389	32,795	29,732	27,378	29,828
	割合	14.5	13.2	12.4	11.5	10.8	12.0
生産年齢人口 (15歳～64歳)	実数	181,177	177,418	164,930	151,895	147,466	143,806
	割合	67.5	66.2	62.4	58.7	58.4	58.0
老年人口 (65歳以上)	実数	48,062	54,922	61,457	69,378	77,547	74,344
	割合	17.9	20.5	23.2	26.8	30.7	30.0
年齢不詳	実数	182	104	5,366	7,549	0	0
	割合	0.1	0.0	2.0	2.9	0.0	0.0

資料：国勢調査（平成12年～令和2年）、徳島市住民基本台帳（令和5年4月1日現在）より作成

■徳島市の年齢別人口（3区分）の年次推移



②出生と死亡

ア 年次推移

徳島市の令和3年の出生数は、1,839人、死亡数は3,117人となっており、死亡数が出生数を上回っています。平成29年から令和3年までの推移をみると、徳島市の出生率は8.3から7.3と減少し、死亡率は11.4から12.4と増加しています。自然増加率はマイナス3.1からマイナス5.1と増加しています。

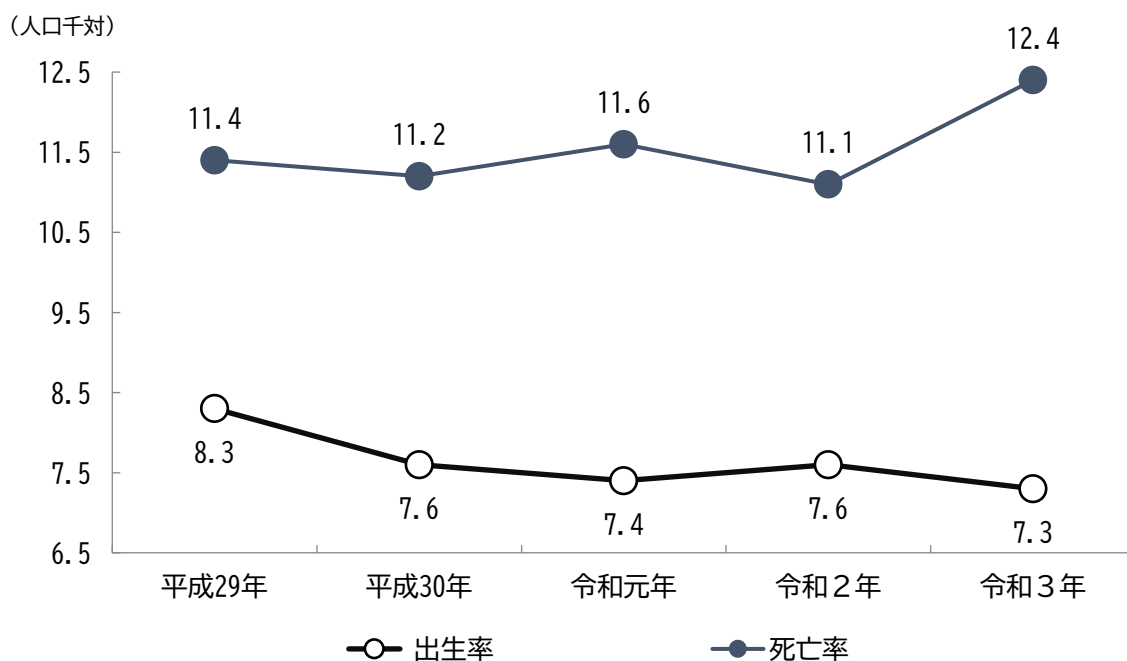
■徳島市の出生・死亡・自然増加の年次推移

(単位：人、人口千対)

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出生	2,129	1,955	1,882	1,903	1,839
死亡	2,947	2,868	2,971	2,788	3,117
自然増加	△ 818	△ 913	△ 1,089	△ 885	△ 1,278
出生率	8.3	7.6	7.4	7.6	7.3
死亡率	11.4	11.2	11.6	11.1	12.4
自然増加率	△ 3.1	△ 3.6	△ 4.2	△ 3.5	△ 5.1

出典：人口動態統計（平成29年～令和3年）

■徳島市の出生・死亡・自然増加率の年次推移



イ 県と国との比較

徳島市の出生率は、徳島県より 1.2 ポイント高く、全国より 0.7 ポイント高い状態になっています。

徳島市の死亡率は、徳島県より 2.4 ポイント低く、全国より 0.7 ポイント高い状態になっています。

■令和3年出生・死亡の状況

(単位：人、人口千対)

区分		徳島市	徳島県	全国
人口		251,146	712,000	125,502,000
	男性	119,650	340,000	61,019,000
	女性	131,496	372,000	64,483,000
出生		1,839	4,337	811,622
死亡		3,117	10,465	1,439,856
自然増加		△ 1,278	△ 6,128	△ 628,234
出生率		7.3	6.1	6.6
死亡率		12.4	14.8	11.7
自然増加率		△ 5.1	△ 8.7	△ 5.1

出典：令和3年徳島県保健・衛生統計年報

③高齢化率

徳島市の高齢化率は平成12年では17.9%でしたが、令和2年では30.7%と12.8ポイント増加しており、高齢化が進行しています。

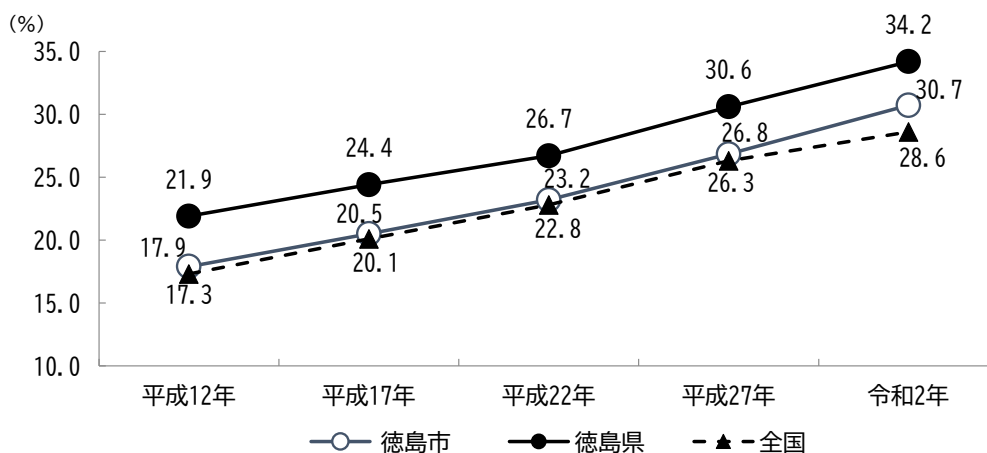
■高齢化率の年次推移

(単位：%)

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
徳島市	17.9	20.5	23.2	26.8	30.7
徳島県	21.9	24.4	26.7	30.6	34.2
全国	17.3	20.1	22.8	26.3	28.6

資料：国勢調査より作成

■高齢化率の年次推移



(2) 死亡の状況

①年代別死亡率

徳島市の壮年期（40～59歳）死亡率は、令和3年では0.47であり、平成29年と比較すると0.07ポイント減少しています。

■壮年期（40～59歳）死亡率の年次推移

(単位：人口千対)

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
徳島市	0.54	0.53	0.53	0.61	0.47
徳島県	0.54	0.53	0.52	0.56	0.50
全国	0.56	0.56	0.56	0.56	0.57

資料：徳島県保健・衛生統計年報、人口動態統計（平成29年～令和3年）より作成

②死因別死亡率と死亡割合

令和3年の徳島市における死因別死亡率は、第1位が悪性新生物（がん）、第2位が心疾患、第3位が肺炎となっています。

腎不全による死亡率は、徳島市は30.7であり、徳島県の37.4より低いものの、全国の23.4より高くなっています。

心疾患、肺炎による死亡率も全国より高くなっています。

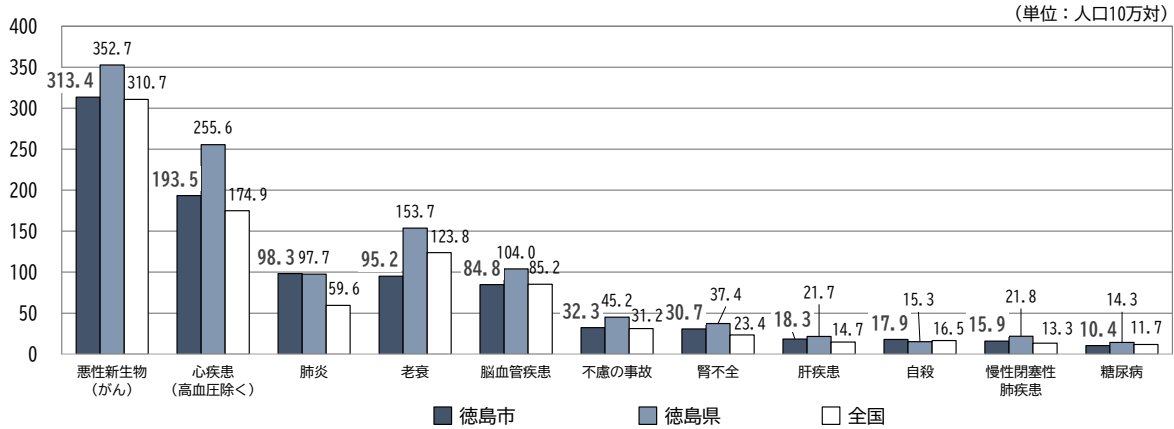
■令和3年主な死因別死亡数、死亡率及び死亡割合

(単位：人、人口10万対、%)

死因	徳島市				徳島県				全国			
	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	割合	順位
全死因	3157	1241.1	100.0		10,619	1482.3	100.0		1,456,240	1172.7	100.0	
悪性新生物（がん）	787	313.4	24.9	1	2,490	352.7	23.4	1	381,505	310.7	26.2	1
心疾患（高血圧除く）	486	193.5	15.4	2	1,593	255.6	15.0	2	214,710	174.9	14.7	2
肺炎	247	98.3	7.8	3	690	97.7	6.5	5	73,194	59.6	5.0	5
老衰	239	95.2	7.6	4	1,085	153.7	10.2	3	152,027	123.8	10.4	3
脳血管疾患	213	84.8	6.7	5	734	104.0	6.9	4	104,595	85.2	7.2	4
不慮の事故	81	32.3	2.6	6	319	45.2	3.0	6	38,355	31.2	2.6	6
腎不全	77	30.7	2.4	7	264	37.4	2.5	7	28,688	23.4	2.0	7
肝疾患	46	18.3	1.5	8	153	21.7	1.4	9	18,017	14.7	1.2	9
自殺	45	17.9	1.4	9	108	15.3	1.0	10	20,291	16.5	1.4	8
慢性閉塞性肺疾患	40	15.9	1.3	10	154	21.8	1.5	8	16,384	13.3	1.1	10
糖尿病	26	10.4	0.8	11	101	14.3	1.0	11	14,356	11.7	1.0	11
その他	870	346.3	27.6	-	2928	384.7	27.6	-	394,118	321.0	27.1	-

出典：令和3年徳島県保健・衛生統計年報

■令和3年主な死因別死亡数、死亡率及び死亡割合



③死因別死亡割合の推移

平成29年から令和3年でみてみると、徳島市の死因順位の第1位は、悪性新生物(がん)、第2位は心疾患で変わりませんが、第3位以下については、年によって入れ替わっています。

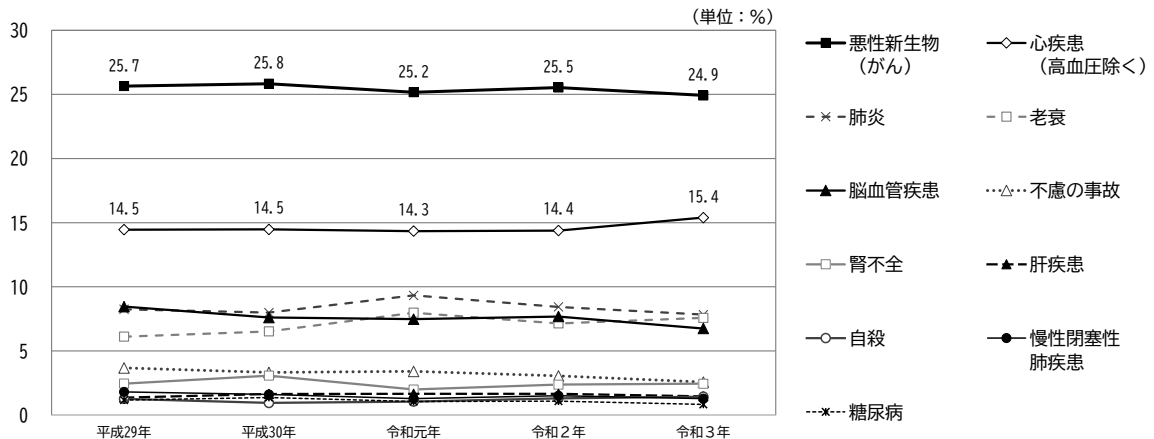
■徳島市主な死因別死亡割合の年次推移

(単位：%)

死因	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年	
	割合	順位	割合	順位	割合	順位	割合	順位	割合	順位
悪性新生物(がん)	25.7	1	25.8	1	25.2	1	25.5	1	24.9	1
心疾患(高血圧除く)	14.5	2	14.5	2	14.3	2	14.4	2	15.4	2
肺炎	8.2	4	8.0	3	9.3	3	8.4	3	7.8	3
老衰	6.1	5	6.5	5	8.0	4	7.1	5	7.6	4
脳血管疾患	8.4	3	7.6	4	7.5	5	7.7	4	6.7	5
不慮の事故	3.7	6	3.3	6	3.4	6	3.0	6	2.6	6
腎不全	2.4	7	3.1	7	2.0	7	2.4	7	2.4	7
肝疾患	1.4	9	1.6	8	1.6	8	1.6	8	1.5	8
自殺	1.3	10	0.9	11	1.0	10	1.3	10	1.4	9
慢性閉塞性肺疾患	1.8	8	1.6	9	1.3	9	1.5	9	1.3	10
糖尿病	1.2	11	1.4	10	1.0	10	1.1	11	0.8	11
その他	25.4	-	25.7	-	25.3	-	25.9	-	27.6	-
計	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-

資料：徳島県保健・衛生統計年報(H29～R3)より作成

■徳島市主な死因別死亡割合の年次推移

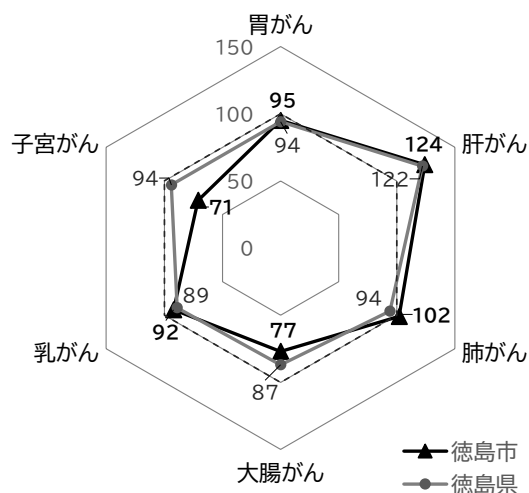
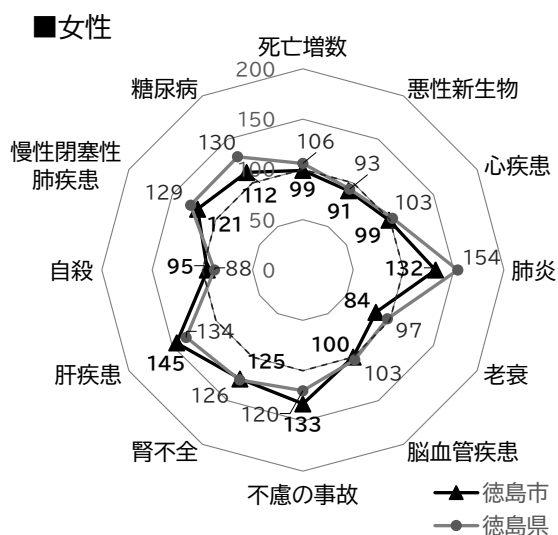
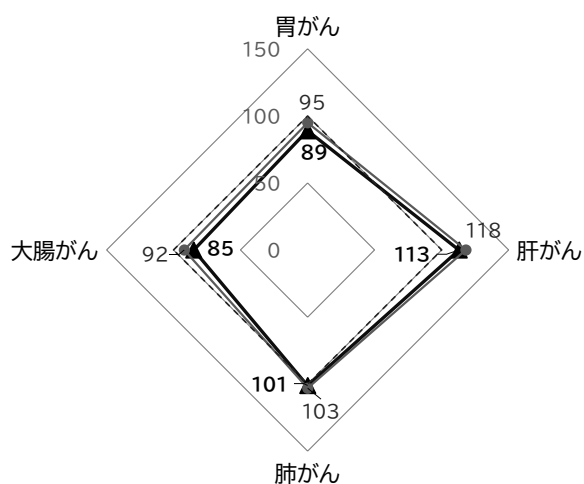
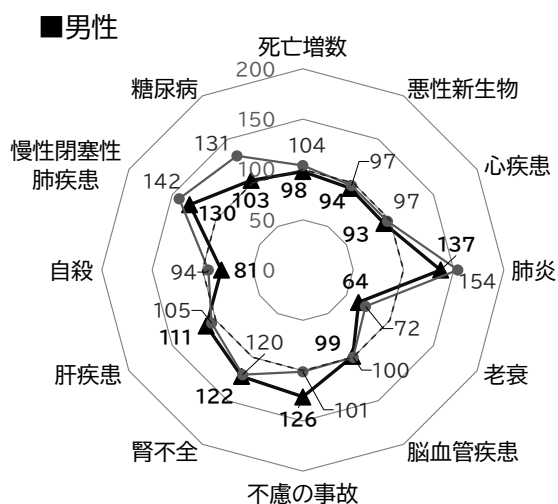


④標準化死亡比（SMR）

標準死亡率（SMR）は、その地域の年齢構成の違いを除いて死亡率を全国平均と比較したもので、全国と同じであれば100となります。

平成29年から令和3年までの徳島市の標準化死亡比（SMR）をみると、徳島市の男性、女性ともに肺炎、不慮の事故、腎不全、慢性閉塞性肺疾患が高い傾向にあります。徳島県と比較すると、男性では不慮の事故、女性では不慮の事故、腎不全、肝疾患、自殺が高い傾向にあります。

徳島市の悪性新生物（がん）の部位別標準化死亡比（SMR）では男性、女性ともに肝がんが高い傾向にあります。徳島県と比較すると、女性では子宮がんが低い傾向にあります。



⑤悪性新生物（がん）による死亡

部位別では、徳島市、徳島県、全国とも、第1位が気管、気管支及び肺、徳島市は第2位、第3位は胃、大腸（結腸、直腸）、徳島県、全国は第2位、第3位は大腸（結腸、直腸）胃となっています。

気管、気管支及び肺、胃、大腸（結腸、直腸）の割合は、徳島市、徳島県、全国とも約40%を占めています。

■令和3年悪性新生物（がん）の部位別死亡者数、死亡率及び死亡割合（単位：人、人口10万対、%）

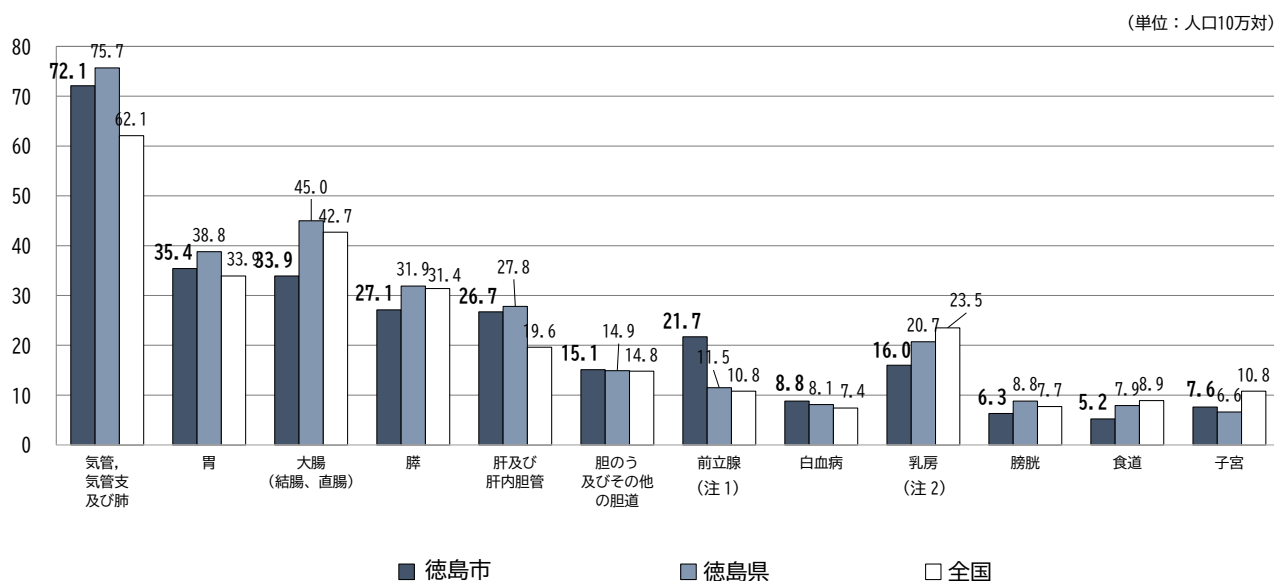
死 因	徳島市			徳島県			全国		
	死亡数	死亡率	割合	死亡数	死亡率	割合	死亡数	死亡率	割合
主な悪性新生物（がん）	787	313.4	100.0	2,490	349.8	100.0	381,505	310.7	100.0
気管、気管支及び肺	181	72.1	23.0	539	75.7	21.6	76,212	62.1	20.0
胃	89	35.4	11.3	276	38.8	11.1	41,624	33.9	10.9
大腸（結腸、直腸）	85	33.9	10.8	318	45.0	12.8	52,418	42.7	13.7
膵	68	27.1	8.6	227	31.9	9.1	38,579	31.4	10.1
肝及び膵内胆管	67	26.7	8.5	198	27.8	8.0	24,102	19.6	6.3
胆のう及びその他の胆道	38	15.1	4.8	106	14.9	4.3	18,172	14.8	4.8
前立腺（注1）	26	21.7	3.3	81	11.5	3.3	13,217	10.8	3.5
白血病	22	8.8	2.8	60	8.1	2.4	9,124	7.4	2.4
乳房（注2）	21	16.0	2.7	78	20.7	3.1	14,908	23.5	3.9
膀胱	16	6.3	2.0	62	8.8	2.5	9,443	7.7	2.5
食道	13	5.2	1.7	56	7.9	2.2	10,958	8.9	2.9
子宮	10	7.6	1.3	47	6.6	1.9	6,818	10.8	1.8

出典：人口動態調査、徳島県保健・衛生統計年報

（注1）前立腺は、死亡数、死亡率ともに男性の数値である

（注2）乳房は、死亡数、死亡率ともに女性の数値である

■令和3年悪性新生物（がん）の部位別死亡率



(3) 平均寿命と健康寿命

令和3年国民生活基礎調査等を持ちにした健康寿命の全国平均値は、男性 72.68 歳、女性 75.38 歳であり、男性 72.13 歳、女性 75.03 歳である徳島県の健康寿命は、男女ともに全国平均を下回っています。

平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味し、全国では男性 8.73 歳、女性 12.07 歳、徳島県では男性 9.14 歳、女性 12.39 歳となっています。

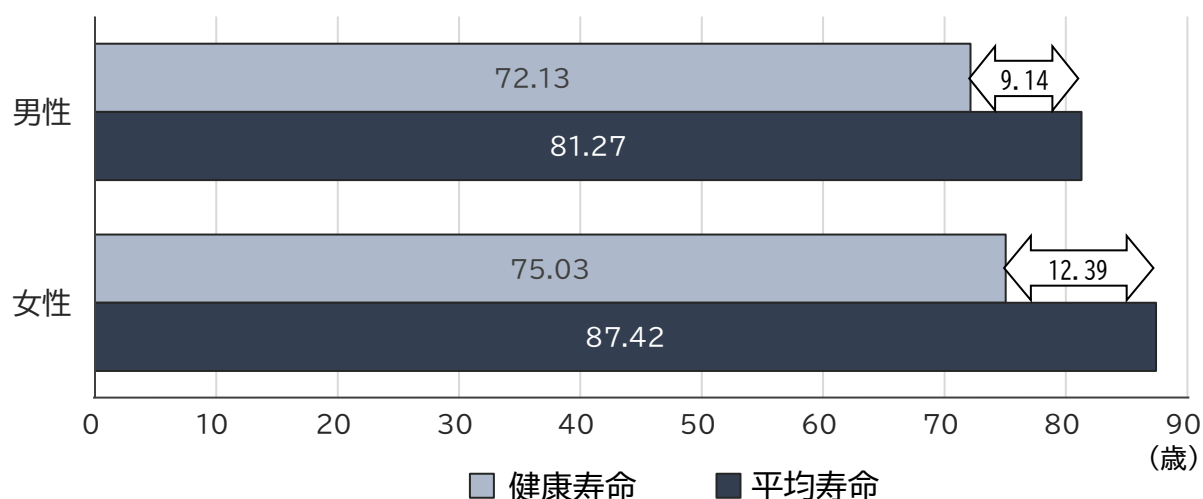
■令和3年平均寿命と健康寿命

(単位：歳)

性別	徳島県			全国		
	平均寿命	健康寿命	差	平均寿命	健康寿命	差
男性	81.27	72.13	9.14	81.41	72.68	8.73
女性	87.42	75.03	12.39	87.45	75.38	12.07

出典：令和3年厚生労働科学研究
※都道府県別平均寿命は令和2年の値

■令和3年徳島県の平均寿命と健康寿命



(4) 医療状況

徳島市の疾病分終別受療件数の被保険者千人当たりレセプト件数では、循環器系の疾患 110.142 件 (15.8%)、内分泌・栄養及び代謝疾患は 110.206 件 (15.6%) となっています。

徳島市の入院・外来を合わせた医療費割合の内訳では、新生物<腫瘍> 15.7%が最も多く、次いで循環器系の疾患 13.0%、精神及び行動の障害 11.4%となっています。

■徳島市の疾病分類別受療状況 (国民健康保険)

(単位：件、点、%)

区分	被保険者千人当たりレセプト件数			1保険者当たり総点数		
	外来	入院	割合	外来	入院	割合
歯科疾患	166.236			135,539,331		
循環器系の疾患	110.142	2.393	15.8	98,885,443	113,539,386	13.0
内分泌・栄養及び代謝疾患	110.206	0.503	15.6	134,870,114	13,397,448	9.1
筋骨格系および結合組織の疾患	69.569	2.032	10.1	77,495,059	78,408,923	9.5
眼及び付属器の疾患	61.856	0.169	8.7	62,716,307	5,120,748	4.1
呼吸器系の疾患	59.260	1.158	8.5	62,124,359	38,171,859	6.1
消化器系の疾患 (歯科疾患除く)	52.131	1.453	7.5	59,909,016	37,680,068	6.0
精神及び行動の障害	42.491	5.396	6.7	53,600,239	132,938,085	11.4
皮膚及び皮下組織の疾患	43.483	0.226	6.2	25,950,818	6,455,935	2.0
尿路性器系の疾患	28.822	0.733	4.2	76,010,947	21,780,200	6.0
新生物<腫瘍>	23.517	2.327	3.6	143,244,759	113,206,012	15.7
感染症及び寄生虫病	18.000	0.211	2.6	22,689,298	7,306,918	1.8
その他	69.029	5.134	10.4	90,299,456	161,784,539	15.4
合計	688.506	21.735	100.0	907,795,815	729,790,121	100.0

出典：KDB疾病別医療費分析 大分類 (国民健康保険)

(5) 介護保険

徳島市の介護保険第1号保険者(65歳以上)に対する要介護・要支援認定率の推移は、ほぼ横ばい状態です。

徳島市の認定率は全国より高く、平成30年は3.8ポイント差でしたが、年々減少しており、令和5年は2.1ポイント差となっています。

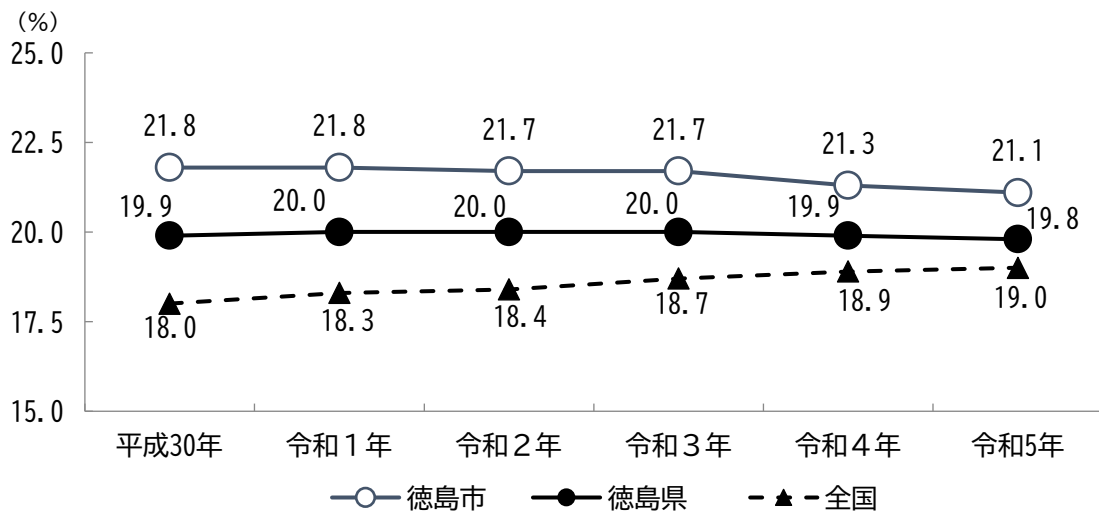
要介護度別構成割合は、徳島市は要支援2、要介護1が全国よりも高くなっています。

■第1号被保険者に対する要介護・要支援認定率の年次推移

(単位：%)

区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
徳島市	21.8	21.8	21.7	21.7	21.3	21.1
徳島県	19.9	20.0	20.0	20.0	19.9	19.8
全国	18.0	18.3	18.4	18.7	18.9	19.0

■第1号被保険者に対する要介護・要支援認定率の年次推移



■令和4年要介護・要支援認定者の要介護度別構成割合

(単位：%)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
徳島市	13.1	14.6	24.0	16.4	12.7	11.6	7.6
徳島県	10.7	15.5	20.3	17.9	14.0	13.1	8.5
全国	14.3	13.8	20.9	16.7	13.2	12.7	8.4

出典：徳島市介護認定結果、厚生労働省介護保険事業報告

2 がん検診

徳島市の胃がん・肺がん・大腸がん検診の受診率は、徳島県・全国より低くなっています。子宮頸がん検診の受診率は徳島県より高くなっています。

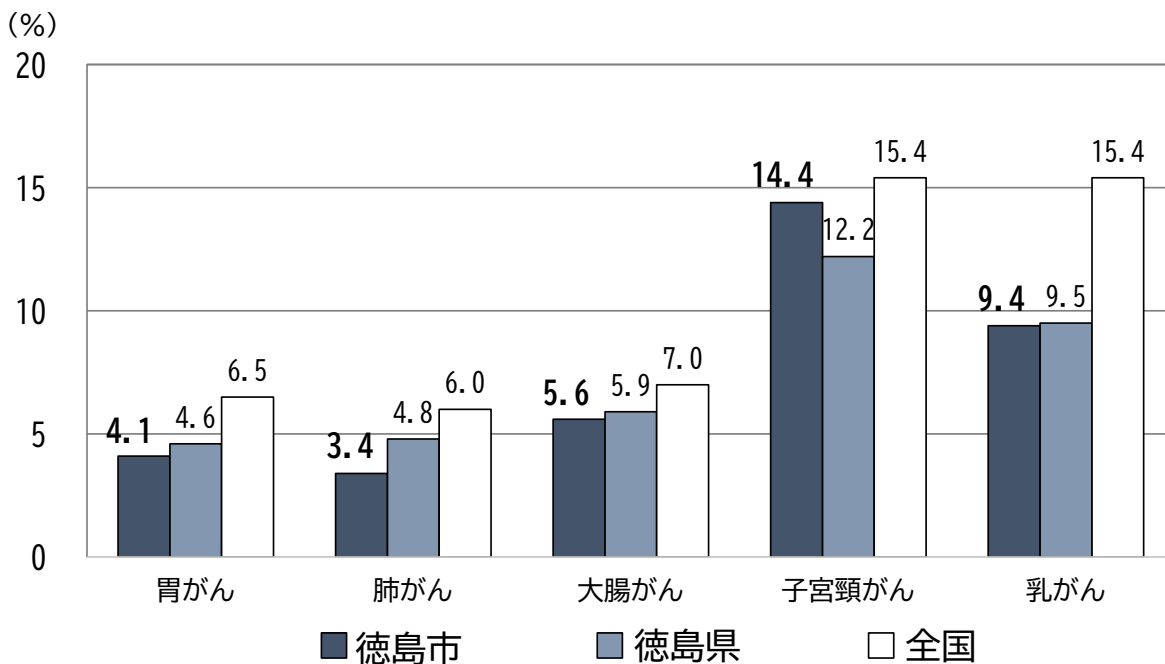
■令和4年度がん検診受診率

(単位：%)

区分	徳島市	徳島県	全国
胃がん	4.1	4.6	6.5
肺がん	3.4	4.8	6.0
大腸がん	5.6	5.9	7.0
子宮頸がん	14.4	12.2	15.4
乳がん	9.4	9.5	15.4

出典：徳島市：がん検診受診結果
 全国・県：徳島保健所管内及び管内市町村の健康指標

■令和4年度がん検診受診率（市、県、全国の比較）



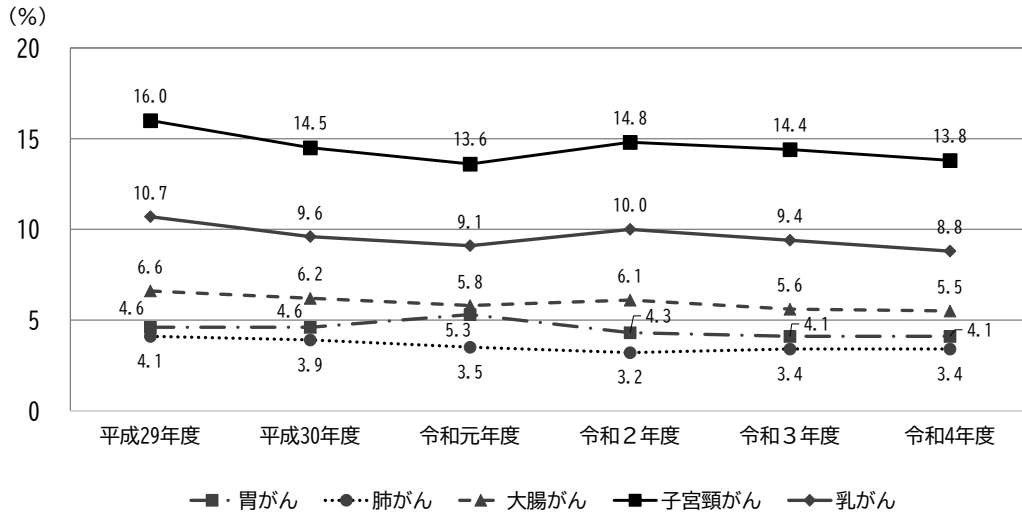
■徳島市のがん検診受診率の年次推移

(単位：%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
胃がん	4.6	4.6	5.3	4.3	4.1	4.1
肺がん	4.1	3.9	3.5	3.2	3.4	3.4
大腸がん	6.6	6.2	5.8	6.1	5.6	5.5
子宮頸がん	16.0	14.5	13.6	14.8	14.4	13.8
乳がん	10.7	9.6	9.1	10.0	9.4	8.8

出典：徳島市：がん検診受診結果

■徳島市のがん検診受診率の年次推移



3 特定健康診査・特定保健指導

(1) 特定健康診査

徳島市の特定健康診査(国民健康保険)は、平成29年より横ばいで推移していますが、令和3年より増加傾向がみられます。徳島県(国民健康保険)・全国(国民健康保険)より低い実施率で推移しています。

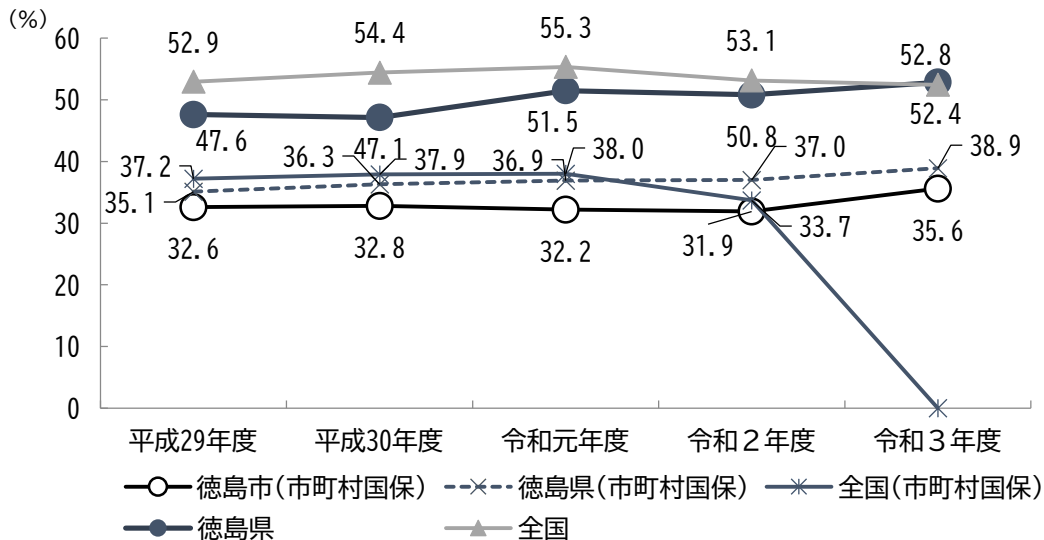
■特定健康診査受診率の年次推移

(単位：%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
徳島市(市町村国保)	32.6	32.8	32.2	31.9	35.6
徳島県(市町村国保)	35.1	36.3	36.9	37.0	38.9
全国(市町村国保)	37.2	37.9	38.0	33.7	-
徳島県	47.6	47.1	51.5	50.8	52.8
全国	52.9	54.4	55.3	53.1	52.4

出典：特定健康診査法定報告

■特定健康診査受診率の年次推移



(2) 特定保健指導

徳島市の特定保健指導実施率（国民健康保険）は、平成29年度より全国（国民健康保険）より高い実施率で推移しており、徳島県（国民健康保険）と比較する低い実施率となっています。令和3年度では54.1%となっています。

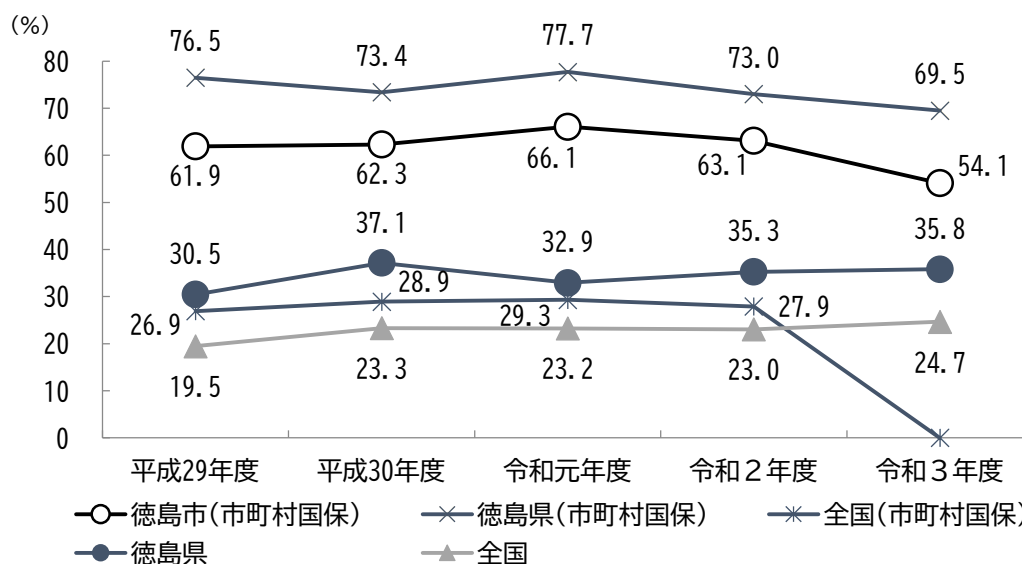
■特定保健指導実施率の年次推移

(単位：%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
徳島市(市町村国保)	61.9	62.3	66.1	63.1	54.1
徳島県(市町村国保)	76.5	73.4	77.7	73.0	69.5
全国(市町村国保)	26.9	28.9	29.3	27.9	-
徳島県	30.5	37.1	32.9	35.3	35.8
全国	19.5	23.3	23.2	23.0	24.7

出典：特定健康診査法定報告

■特定保健指導実施率の年次推移



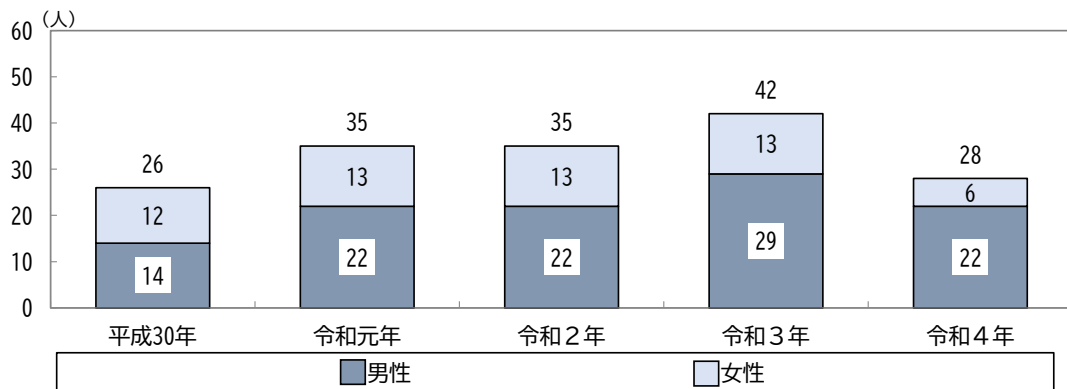
4 自殺に関する状況

(1) 自殺者数・自殺死亡率の推移

徳島市の平成30年以降の自殺者数は、増減を繰り返しており、令和3年では40人を超えています。

自殺者数を男女別にみると、令和3年では男女の自殺者数に大差はみられないものの、平成30年～令和4年まで常に男性の自殺者の方が女性の自殺者数を上回っており、令和4年には、男性の自殺者数は女性の3倍以上となっています。

■自殺者数の推移（徳島市）



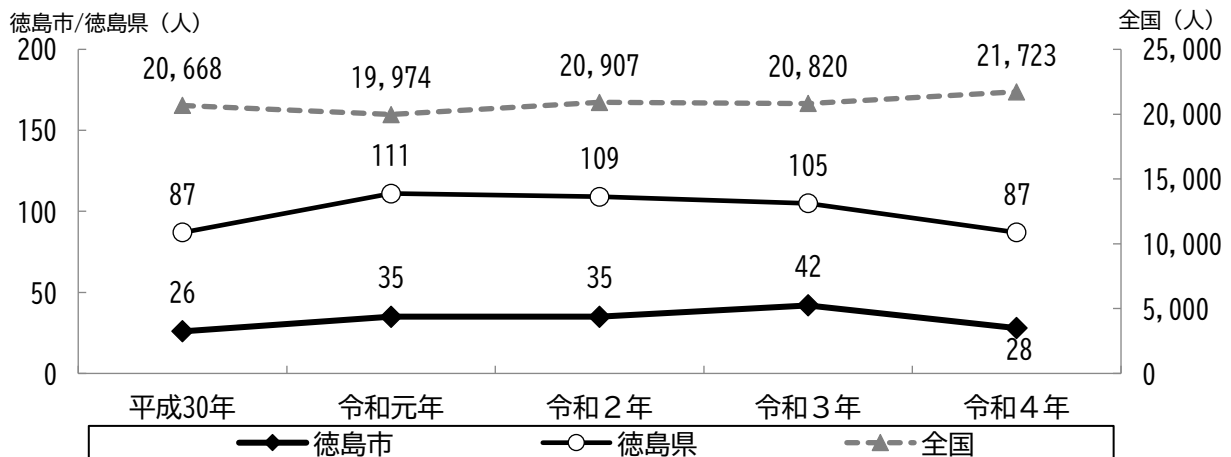
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成30年以降の自殺者数は、徳島県では令和元年以降減少傾向がみられますが、全国では増減を繰り返しています。

自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）は、令和3年には徳島市の死亡率が、徳島県及び全国より上回っています。

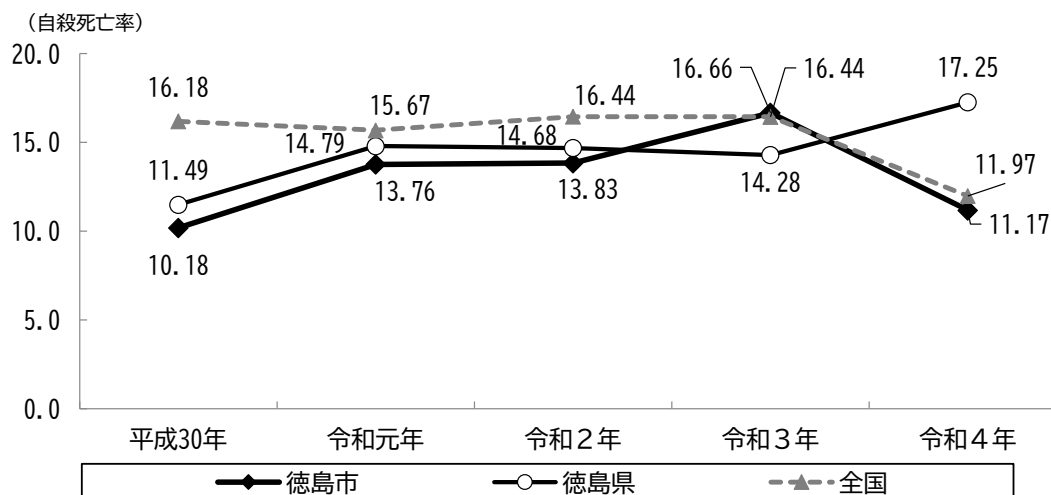
また、性別に自殺死亡率をみると、徳島市、徳島県及び全国で男性の自殺死亡率が女性の自殺死亡率を上回っています。また、徳島市の男性の自殺死亡率は、令和3年には徳島県、全国を上回り、22.31となっています。

■自殺者数の推移（徳島市・徳島県・全国）



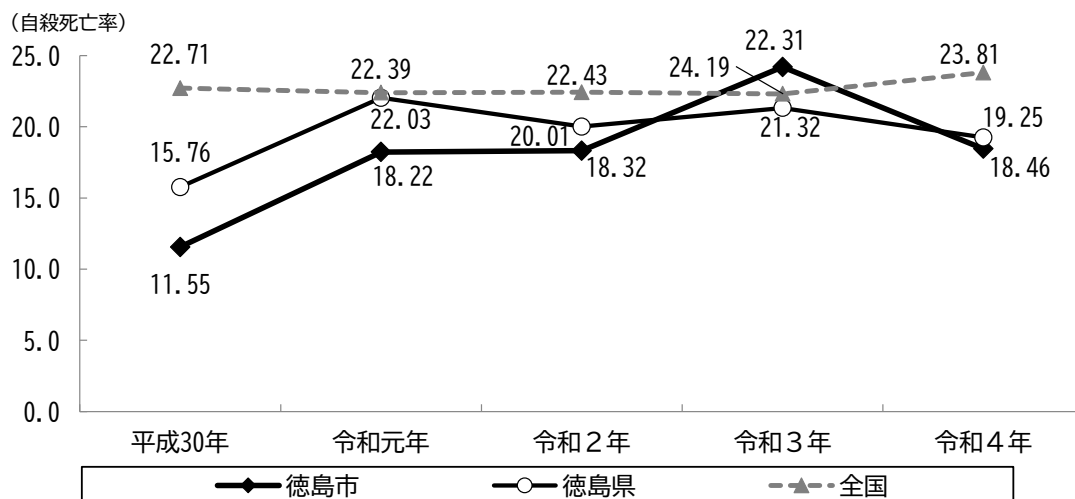
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

■自殺死亡率の推移（徳島市・徳島県・全国）



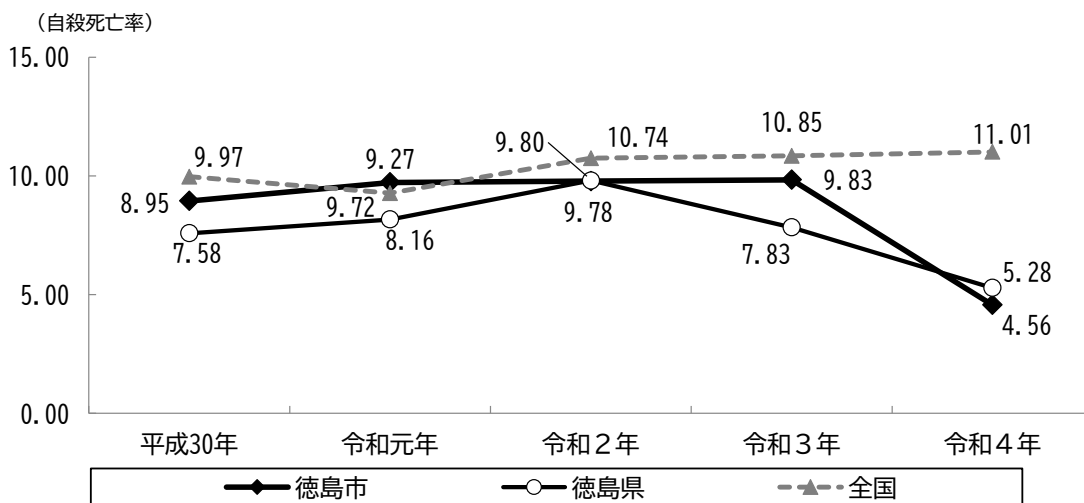
※「自殺死亡率」・・・自殺者数を当該地方公共団体の人口で除し、これを10万人当たりの数値に換算したもの
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

■自殺死亡率の推移【男性】（徳島市・徳島県・全国）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

■自殺死亡率の推移【女性】（徳島市・徳島県・全国）



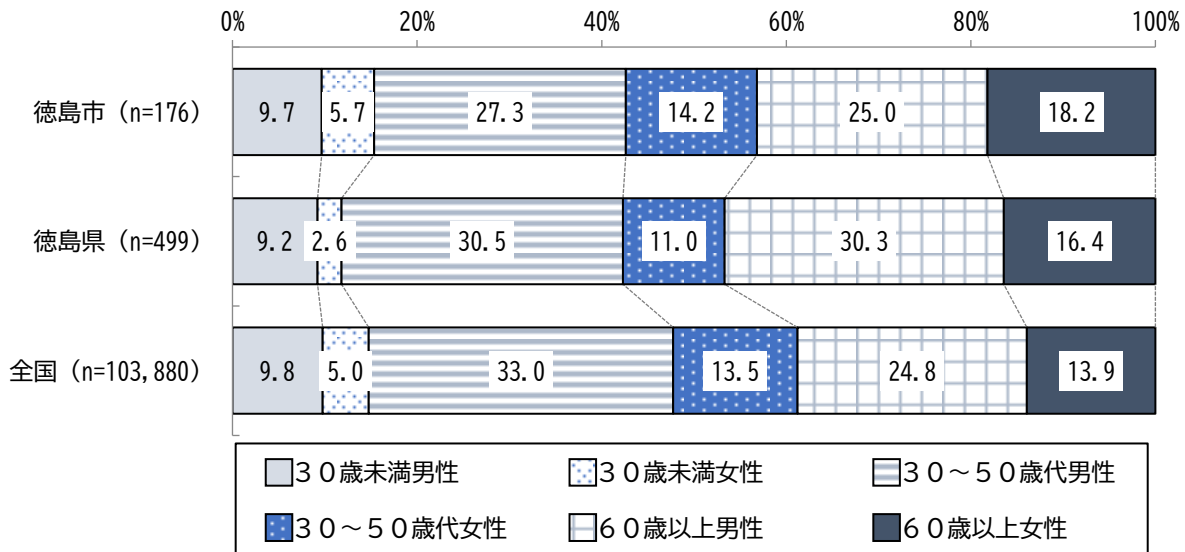
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(2) 年代別自殺者の状況

徳島市における平成 30 年から令和 3 年までの自殺者について年代別の構成比をみると、「30～50 歳代男性」が 27.3%を占め最も高くなっています。次いで「60 歳以上男性」が 25.0%、さらに「60 歳以上女性」が 18.2%、「30～50 歳代女性」が 14.2%で続き、30 歳以上の男女で全体の 84.7%を占めています。

徳島県及び全国と比較すると、自殺の多い年代の順位に差が見られます。

■自殺死亡率の推移（徳島市・徳島県・全国）



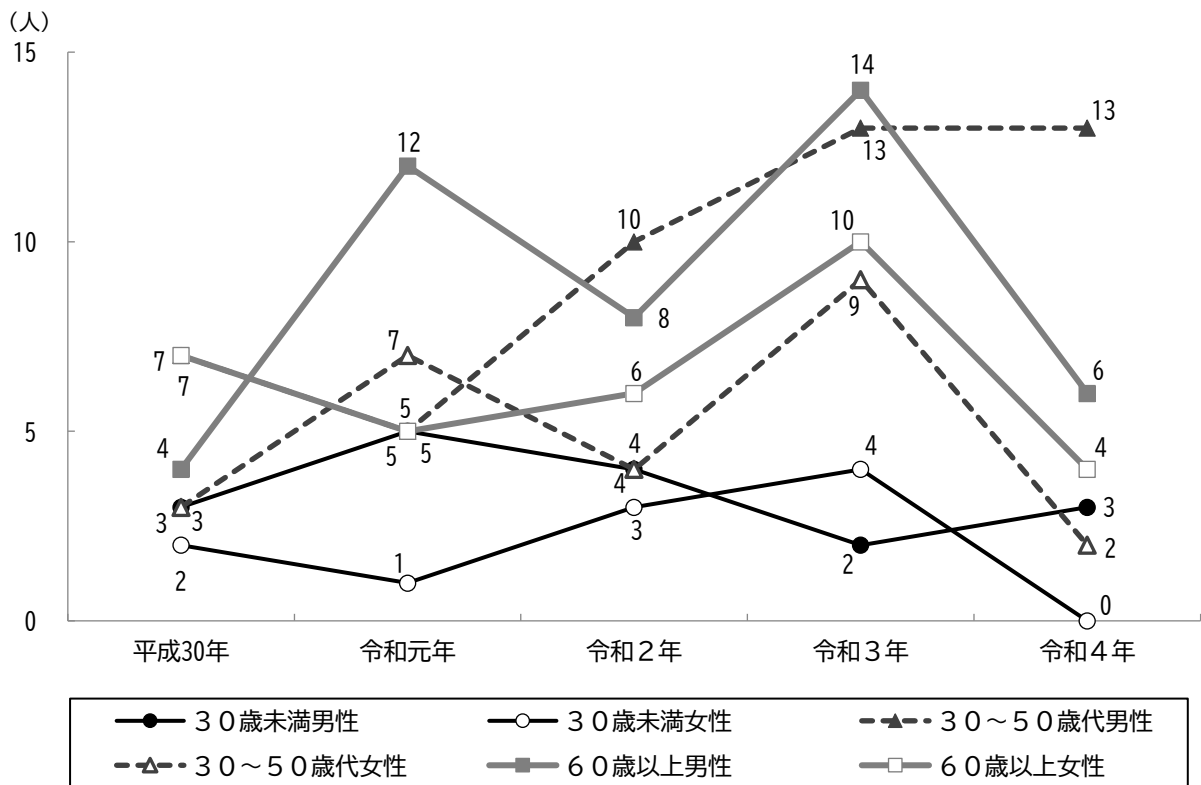
※ nは年齢不詳を除いた総数

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

徳島市の年代別自殺者数の推移をみると、「30～50 歳代男性」が平成 30 年の 7 人から令和 3 年の 13 人と増加しています。同様に他の年代の男女ともに増減はあるものの、減少傾向となっているのは、「30 歳未満女性」、「30～50 歳代女性」、「60 歳以上女性」、一方、増加傾向にあるのが「30 歳未満男性」、「30～50 歳代男性」、「60 歳以上男性」となっています。

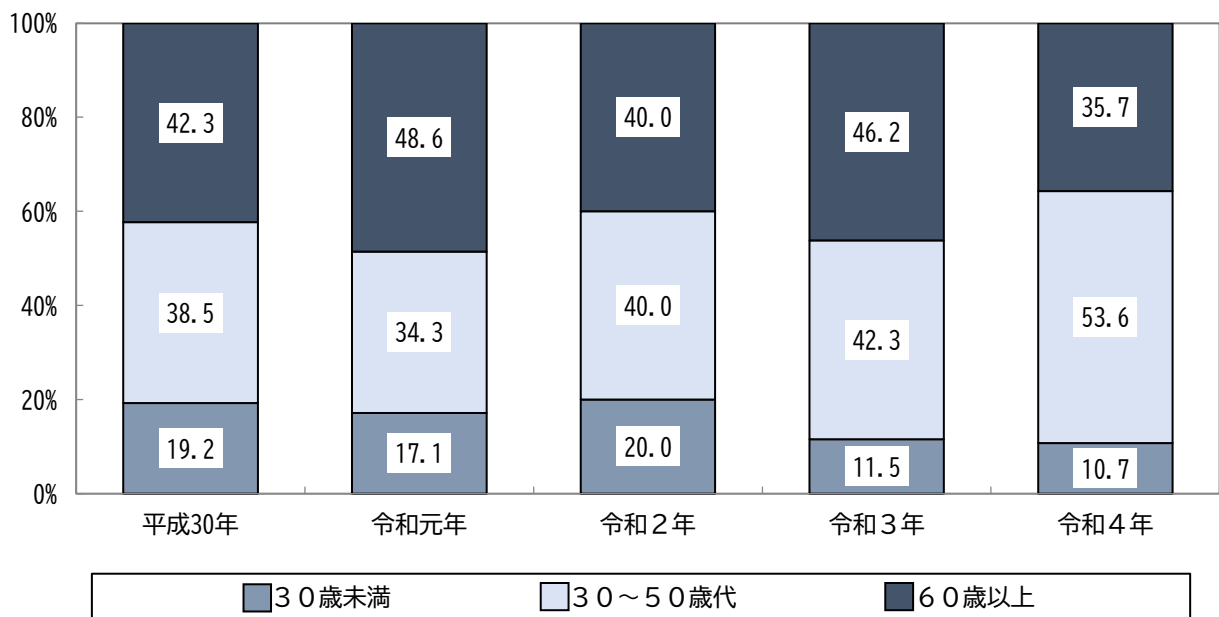
この結果に伴い、年代別自殺者構成比をみると、「30 歳未満」、「60 歳以上」では増減を繰り返しながらも減少傾向がみられ、一方で「30～50 歳代」では減少を繰り返しながら増加傾向がみられます。

■年代別自殺者数の推移（徳島市）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

■年代別自殺者構成比の推移（徳島市）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(3) 同居人の有無別の自殺者の状況

徳島市における平成30年から令和4年までの自殺者を同居人の有無別にみると、同居人「あり」が59.6%、「なし」が39.2%となっており、徳島県及び全国の結果よりも、同居人「あり」の割合が低く、「なし」の割合が高い結果となっています。

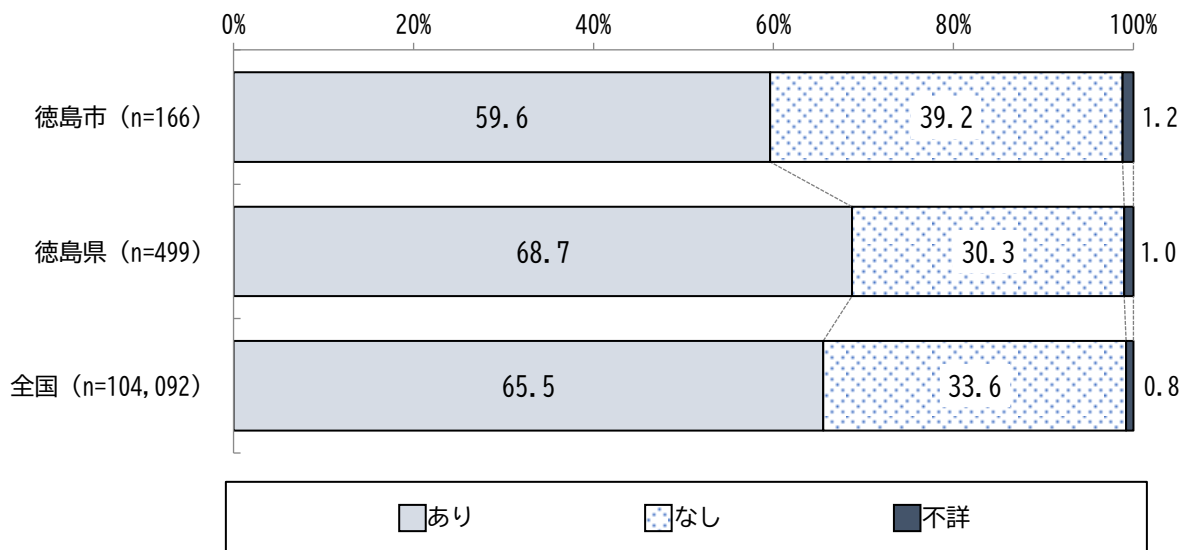
しかし、徳島市における世帯人員の構成比をみると、2人以上の世帯対単独世帯は、平成27年、令和2年ともに約8:2となっていますが、自殺者全体の構成比は同居人「あり」対同居人「なし」の構成比は約6:4となっています。

このことから、単独世帯の人の世帯人員全体に占める割合に比べ、同居人「なし」の自殺者の自殺者全体に占める割合が高くなっており、同居人「あり」(2人以上世帯)の人に比べて、「なし」(単独世帯)の人の方が、自殺者が占める割合は高いといえます。

【市民会議後追記】

(※2人以上世帯と単独世帯の本市の構成は、8:2ですが自殺者の構成は6:4となり自殺者の単独世帯の比率が高くなっています。)

■同居人の有無別構成比 (平成30~令和4年)



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

■単独・2人以上の世帯の世帯人員数と構成比 (徳島市)

	平成27年		令和2年	
	総数(人)	割合(%)	総数(人)	割合(%)
世帯人員数	258,554	100.0	252,391	100.0
単独世帯	46,270	17.9	53,422	21.2
2人以上の世帯	212,284	82.1	198,969	78.8

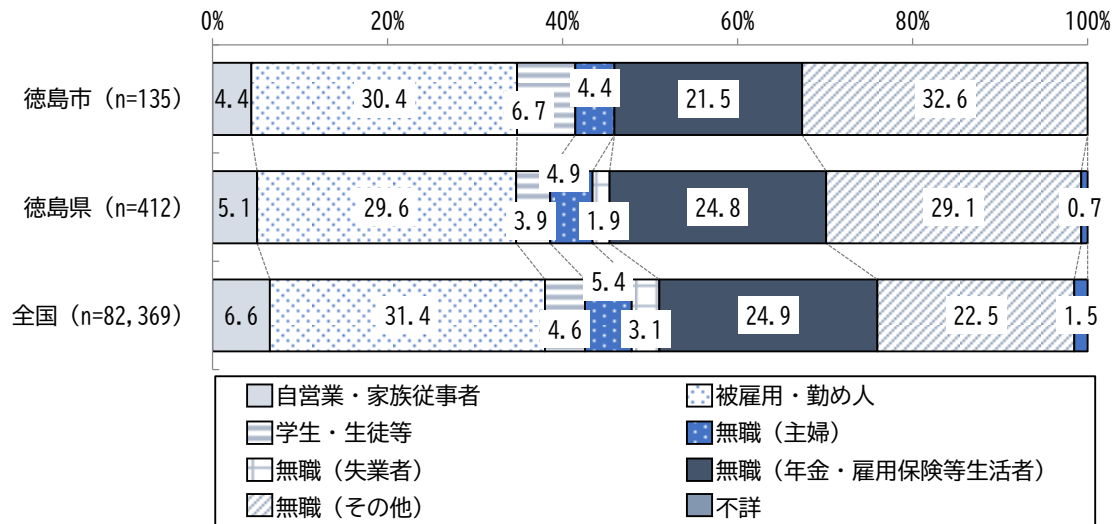
出典：国勢調査

(4) 職業別の自殺者の状況

徳島市における平成30年から令和3年までの自殺者を職業別にみると、無職者の合計が58.5%を占め、次いで「被雇用・勤め人」が30.4%となっています。

徳島県及び全国と比較すると、徳島市では「学生・生徒等」、「無職（その他）」の割合が高く、「自営業・家族従事者」、「無職（主婦）」、「無職（年金・雇用保険等生活者）」の割合は低くなっています。

■職業別構成比（平成30～令和3年）



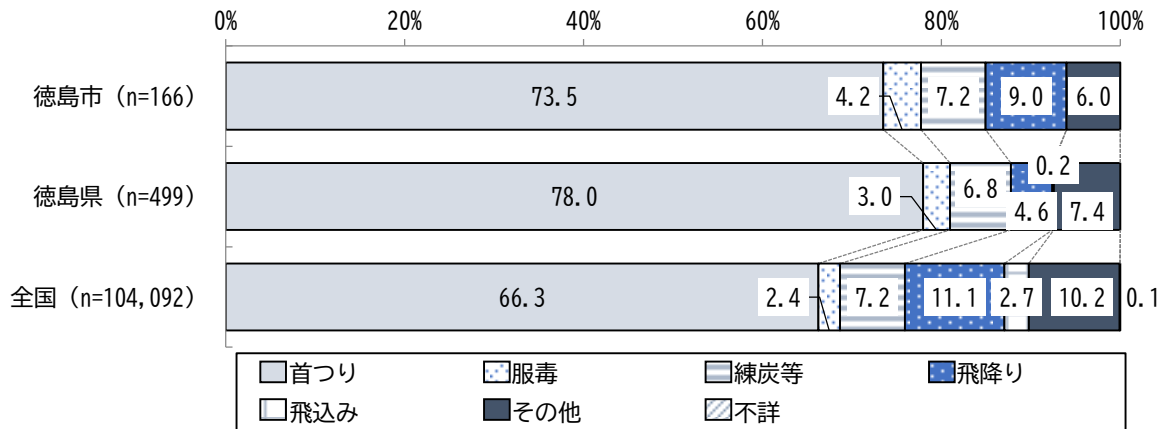
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(5) 手段別自殺者の状況

徳島市における平成30年から令和4年までの自殺者を自殺手段別にみると、「首つり」が73.5%を占め最も高く、次いで「飛降り」が9.0%、「練炭等」が7.2%となっています。

徳島県及び全国と比較すると、徳島市では、「服毒」の割合が高くなっています。

■自殺手段別構成比（平成30～令和4年）



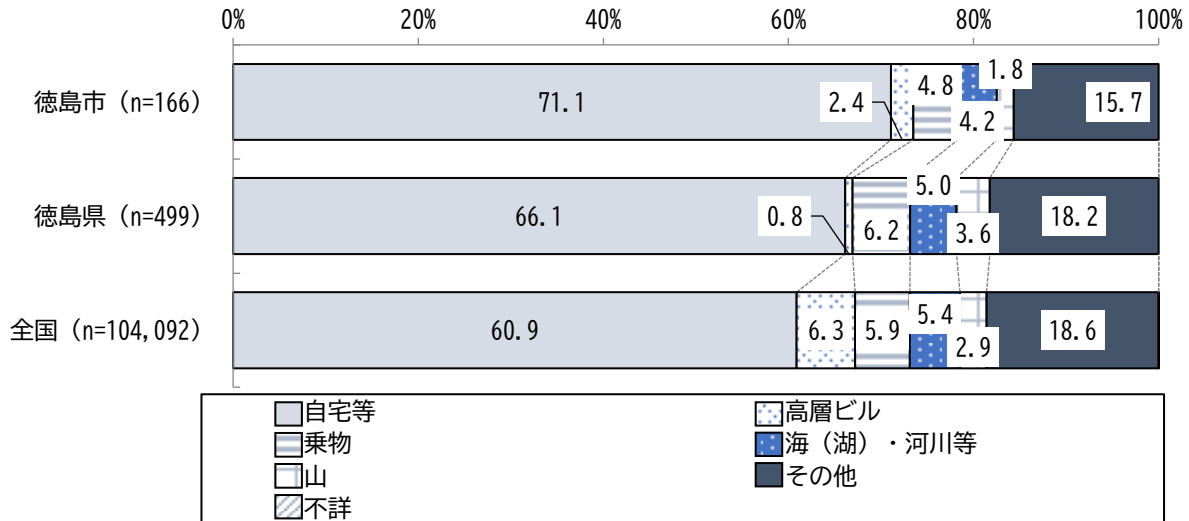
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(6) 場所別の自殺者の状況

徳島市における平成30年から令和4年までの自殺者を自殺場所別にみると、「自宅等」が71.1%を占め最も高く、次いで「乗物」が4.8%、「海（湖）・河川等」が4.2%となっています。

徳島県及び全国と比較すると、徳島市では、「自宅」の割合が高くなっています。

■自殺場所別構成比（平成30～令和4年）



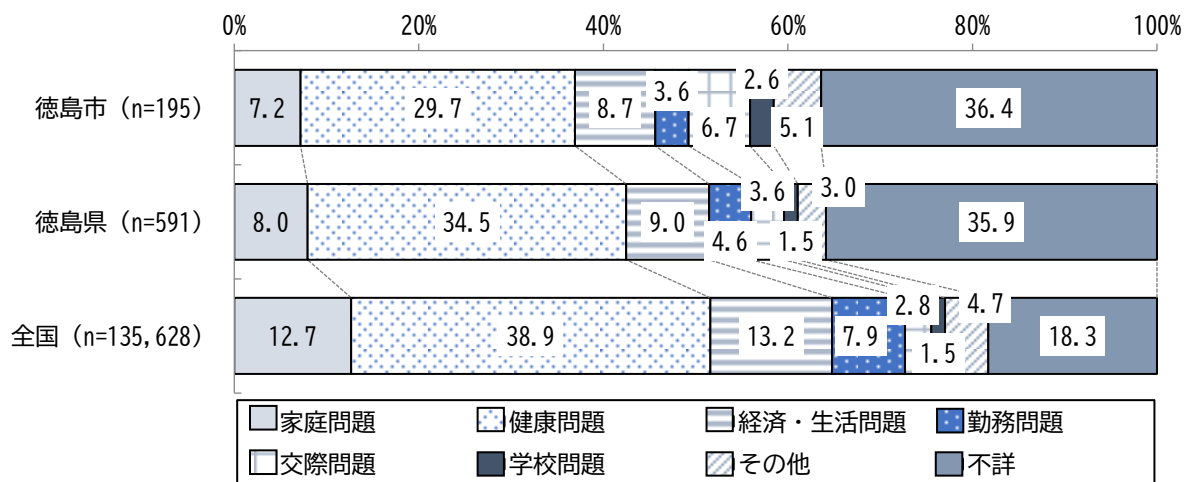
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(7) 原因・動機別の自殺者の状況

徳島市における平成30年から令和4年までの自殺者を原因・動機別にみると、「健康問題」が29.7%を占め最も高く、次いで「経済・生活問題」が8.7%、「家庭問題」が7.2%、「交際問題」が6.7%となっています。

徳島県及び全国と比較すると、徳島市では「交際問題」、「学校問題」の割合が高く、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」の割合は低くなっています。

■原因・動機別の自殺者構成比（平成30～令和4年）



※自殺の原因・動機に係る集計については、推定できる原因・動機を3つまで計上可能（令和4年のみ4つまで計上可能）

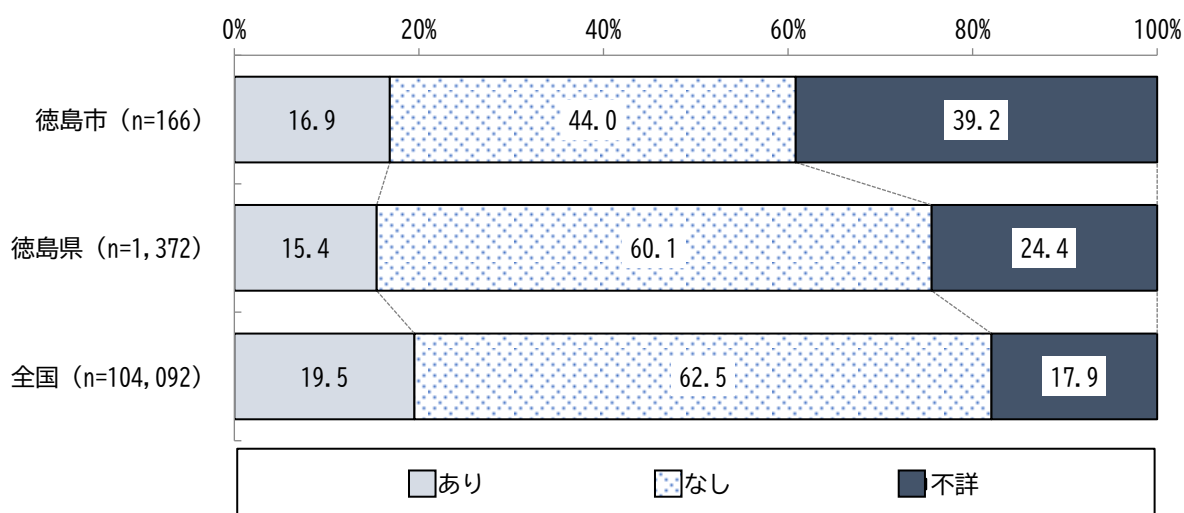
出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(8) 自殺者の自殺未遂歴の状況

徳島市における平成30年から令和4年までの自殺者について、自殺未遂歴の有無をみると、未遂歴「あり」が16.9%、「なし」が44.0%となっています。

徳島県及び全国と比較すると、徳島市では未遂歴「あり」の割合は、大差はみられませんが、自殺未遂歴「なし」で自殺に至る人の割合が44.0%と低くなっています。

■自殺未遂歴の有無別構成比（平成30～令和3年）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

5 地域自殺実態プロフィールによる自殺に関する状況

(1) 地域の自殺の特徴

徳島市における平成29年から令和3年までの自殺の特徴としては、上位5位までのほとんどを「男性」が占めています。また、男性の中でも「60歳以上の無職」の自殺者が多く、失業後に生活苦やうつ状態により自殺に追い込まれてしまうケースが多くみられます。また、男性20～39歳では、失業からの生活苦、学校の人間関係の悩み、就職活動の失敗から将来悲観など、様々な自殺の原因がみられます。

■地域の主な自殺の特徴（自殺日・住居地、H29～R3 合計）

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性60歳以上無職独居	18	9.9%	112.1	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
2位:男性60歳以上無職同居	15	8.3%	18.8	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	13	7.2%	9.8	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性20～39歳無職独居	12	6.6%	141.3	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺/②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
5位:男性20～39歳無職同居	11	6.1%	68.3	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2022）」

順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

*自殺率の母数（人口）は令和2年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

**「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013（ライフリンク）を参考にした。

(2) 高齢者の自殺者関連

60歳以上の自殺者の内訳を全国と比較すると、同居人「あり」の自殺者の割合は、「男性70歳代」で14.7%と最も高くなっています。同居人「なし」の自殺者の割合は、「男性60歳代」で11.8%となっています。

■60歳以上の自殺の内訳（自殺日・住居地、H29～R3 合計）

性別	年齢階級	同居人の有無（人数）		同居人の有無（割合）		全国割合	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60歳代	8	8	11.8%	11.8%	14.0%	10.4%
	70歳代	10	6	14.7%	8.8%	15.0%	8.0%
	80歳以上	4	7	5.9%	10.3%	11.5%	5.0%
女性	60歳代	5	4	7.4%	5.9%	8.7%	2.8%
	70歳代	8	2	11.8%	2.9%	9.1%	4.3%
	80歳以上	1	5	1.5%	7.4%	6.9%	4.3%
合計		68		100%		100%	

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2022）」

※高齢者（65歳以上）の多くが無職のため、性・年代別の同居者の有無を示した。

(3) 子ども・若者の自殺者関連

全国の子ども・若者の自殺者の割合をみると、大学生 42.1%、高校生 30.7%、中学生以下 15.0%、専修学校生等 12.2%となっています。徳島市の割合は大学生で 83.3%と全国よりも高くなっています。

学生・生徒等 (全年齢)	全国割合
中学生以下	15.0%
高校生	30.7%
大学生	42.1%
専修学校生等	12.2%
合計	100%

出典：自殺総合対策推進センター
「地域自殺実態プロファイル（2022）」

(4) 生活状況別にみた背景にある女性の主な自殺の危機経路

生活状況別にみた背景にある女性の主な自殺の危機経路をみると、20～39歳では仕事、生活苦、人間関係、離婚と様々な経路がみられ、40～59歳では人間関係の悩み、夫婦間の不和が自殺の原因となっています。

女性	20～39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	① 非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ② 仕事の悩み→うつ状態→休職/復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	① 【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ② 【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	職場の人間関係+家族間の不和→うつ状態→自殺
独居			職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺	
無職		同居	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺	
		独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺	
	60歳以上	有職	同居	介護疲れ+家族間の不和→身体疾患+うつ状態→自殺
独居			死別・離別+身体疾患→うつ状態→自殺	
無職		同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺	
		独居	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺	

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」